

静岡市のココが聞きたい

総括質問



令和3年6月25日、28日、29日の3日間、18人の議員が総括質問を行いました。質問の一部を抜粋してお知らせします。

新型コロナウイルスワクチン接種の進め方

質問者 望月 俊明 (自民党)

今後のワクチン接種をどのように進めていくのか。

【答弁】 65歳以上の高齢者への接種は7月末まで、12歳以上の希望者への接種は11月末までの完了を目指し、次の3つの課題解決に取り組む。①接種会場の確保は、清水区に新たな特設会場を開設するなど、集団接種会場の予約枠を拡充する。②接種に携わる医療従事者の確保は、医師会や公立・公的病院、薬剤師会のほか、新たに歯科医師会にも接種の担い手として協力をお願いする。③接種しやすい環境の整備は、7月末までに接種券の発送を完了し、8月上旬に、接種スケジュールの区切りに合わせてスピーディに予約ができる新たなシステムを導入する。さらに、現役世代の接種率向上を目指し、仕事帰りにも接種できるように、集団接種会場の開設時間を延長する。

移転後の桜ヶ丘病院の診療機能等

質問者 風間 重樹 (創生静岡)

桜ヶ丘病院の移転関連事業の着手前に、新病院がどのような病院になるのか市民説明会を開催し、市民への説明責任を果たすべきと考えますがどうか。また、新病院にヘリポートは設置されるのか。

【答弁】 基本協定書において、JCHOは、行政や地域の関係者等と連携して地域のニーズを踏まえ、病院の人的体制・物的設備を含め総合的に判断した上で診療機能を決定することになっている。この機能が明らかになり次第、広報紙等を通じて情報提供を行う。また、議決が必要なものについては、議会に諮っていく。

ヘリポートは、JCHOから、設置・維持費の負担等の点から設置しない旨の意向が伝えられたが、国県との連携のもと3日程度での道路開閉に努め、災害時でも患者や物資を搬送できるよう対策を講じていく。

中山間地域における新型コロナウイルスワクチン接種

質問者 安竹 信男 (創生静岡)

中山間地域における接種方式は、巡回接種に統一できなかつたのか。また、接種後の副反応が出た場合の対応はどのように進めているか。

【答弁】 中山間地域内の各診療所の接種可能人数と、域内高齢者の人口及び診療所医師の意見等を参考に、接種方式を決定した。その結果、診療所のない清沢地域と、診療所だけの対応が困難な玉川、大川、両河内の各地域について、医療チームを派遣する巡回接種方式とした。

副反応が生じた場合は、接種会場の医師が、会場に設置しているアレギー反応への対応薬剤や酸素吸入器等を使用し、速やかに緊急措置を行う。また、接種会場での対応が困難な場合は、総合病院へ救急搬送するほか、救急ヘリの発動も要請できる体制を整えている。

第4次静岡市総合計画(4次総)の策定

質問者 山梨 渉 (公明党)

第4次総合計画はどのように策定するか。

【答弁】 計画策定にあたり、最も重要視する考え方はバックキャスト、すなわち逆算思考。いつまでにどのような姿を目指すのかというビジョンを最初に描き、そこから遡って、実現のために今必要なことを中長期的、大局的に考えていく。また、定住人口のみならず、交流人口や関係人口の概念を明確に示し施策に組み込むことで、定住人口70万人に匹敵する人口活力の維持を目指す。特に、4次総においては持続可能性が必須の要件と考えるため、SDGsを組み込み、脱炭素社会の実現とともに民間投資やイノベーションを起こしていくグリーンと、行政や地域が抱える課題解決の革新的なツールとなる「デジタル」の新たな視点で、8年間にわたる計画の策定を進める。

語句説明

逆算思考 バックキャスト

未来のあるべき姿のゴール(目標)と到達期日を含め、それを実現するためのステップを逆算して洗い出し、実行していく手法。

語句説明

清水みなとまちづくりグランドデザイン

本市、静岡県、清水港関係企業、地元銀行及び企業による「清水みなとまちづくり公民連携協議会(2018年4月設立、2021年3月から一般社団法人)」が描いた清水港及び周辺の将来像。清水港及びその周辺地域が今後20年で目指す姿として「ひらく・みなとまち」を掲げ、産業と市民の共存、活力と美しさの両立に向けた10の視点や、先導的に動き出す6地区のリーディングプロジェクトを提案している。

三保半島の特色をいかしたまちづくり

質問者 宮城島 史人 (志政会)

三保半島の観光振興は、今後の本市の発展に不可欠であると考えますが、三保半島の特色をいかした今後のまちづくりについてどう考えているか。

【答弁】 清水みなとまちづくりグランドデザインで掲げる将来像の実現に向け、折戸湾、貝島・塚間、三保海岸は重要なエリアである。中でも三保海岸地区は、マリンスポーツに適した環境や食資源の豊かさなどにより、訪問需要が高まっていることから、更に公民学連携の動きが強まることによる相乗効果に期待している。今後、世界文化遺産三保松原の保全を果たしつつ、質の高い民間投資や海洋研究、産業を呼び込み、それらにハードソフト両面からきめ細かい支援を機動的に行うことで、将来像の実現につながるまちづくりを、第4次静岡市総合計画の中に位置づけて取り組む。

ふるさと納税寄附金受入額拡大の取組

質問者 宮澤 圭輔 (創生静岡)

焼津市の2年度におけるふるさと納税寄附金額は約50億円である。一方、本市は元年度、市への寄附金額に対して市税の流出額が約9億円上回り、非常に残念なことである。素晴らしい地場産品があふれている本市において、今後、ふるさと納税寄附金の受入額拡大に向け、どのように取り組むのか。

【答弁】 ふるさと納税寄附金受入額の更なる増加策として返礼品の質、量の充実を図るため、これまでの公的団体を中心に選定してきた方式に加えて、新たに公募により幅広く返礼品を募集することにした。3年度に公募した返礼品は、8月の審査会を経て秋頃から追加する予定であり、充実した返礼品を取り揃えることで、寄附金の増加だけでなく、シェアプロモーションの推進や地域経済の活性化にもつなげていく。

語句説明

無電柱化推進計画

国土交通省が策定した、電力線や通信線などをまとめて地下に收容するなどして、道路上から電柱や電線をなくす無電柱化に関する施策の総合的、計画的かつ迅速な推進を図るための計画。

語句説明

ふるさと納税

納税者が、自分の選んだ自治体に寄附を行った場合、寄附額のうち2,000円を超える部分について、所得税及び住民税からそれぞれ控除を受けられる制度。区域外に居住する者が寄附をした場合、寄附を受けた自治体から、地場産品などの返礼品を受け取ることができる。

都市計画道路清水港三保線(三保街道)の無電柱化

質問者 堀 努 (自民党)

無電柱化は、防災性の向上、安全性・快適性の確保、良好な景観の3つの視点から実施され、近年の災害の激甚化・頻発化などにより、その必要性が高まっている。また、国土交通省が策定した無電柱化推進計画に、世界文化遺産周辺の無電柱化着手地区数を増やす方針があるが、世界文化遺産構成資産の三保松原の景観に配慮した三保街道の無電柱化をどう考えているか。

【答弁】 当路線は、被災時において津波避難路としての役割が求められていること、三保松原へのアクセス道路であることに加え、世界文化遺産富士山の眺めをより一層魅力あるものとするためにも、無電柱化の効果は大きいと考えている。当路線の無電柱化は3年度策定予定の静岡市無電柱化推進計画(第8期)に位置づけ、事業を進めていく。